

ワールド・ビジョン・ジャパンは多くの組織をパートナーとし、連携して支援活動を行います

東日本大震災緊急復興支援、熊本地震緊急支援で協働したパートナーは以下のとおりです（組織・部署名称は活動当時のもの）

自治体・その他

宮城県教育委員会

気仙沼市教育委員会

気仙沼漁業協同組合

気仙沼市震災復興・企画部震災復興・まちづくり推進課

気仙沼市社会福祉協議会

気仙沼市総務部危機管理課

南三陸町

南三陸町教育委員会

南三陸町社会福祉協議会

宮城県漁業協同組合 歌津支所

宮城県漁業協同組合 志津川支所

宮城県漁業協同組合 戸倉出張所

岩手県 宮古市危機管理課

宮古市教育委員会

宮古市社会福祉協議会

新おつち漁業協同組合

新潟県 柏崎市市民生活部東日本大震災被災者支援室

柏崎市教育委員会

柏崎市社会福祉協議会

特定非営利活動法人地域活動サポートセンター柏崎

熊本県 益城町教育委員会

その他

九州キリスト災害支援センター

公益財団法人熊本 YMCA

生活協同組合ハルシステム東京

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

一般社団法人日本マリノフォーラム 21

企業（一部・敬称略）

株式会社味千汐路

イオンリテール株式会社

イケア・ジャパン株式会社

株式会社イトーヨーカ堂

株式会社ウチヤマホールディングス

株式会社エポスカード

EVERGREEN GROUP

花王株式会社

株式会社コジマ

株式会社コロニアスポーツウェアジャパン

主富服装股份有限公司

住友化学株式会社

株式会社住友倉庫

積水化学工業株式会社

株式会社セブン&アイ・ホールディングス

ソーラーフロンティア株式会社

株式会社ダイエー

株式会社 taishoji

株式会社タイセイ

玉の肌石鹸株式会社

株式会社チュチュアンナ

株式会社ディメンションデータジャパン

西川産業株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

日産自動車株式会社

一般社団法人日本食品機械工業会

任意団体ベネッセ募金口

株式会社ホテルグランパシフィック

公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団

三菱商事株式会社

三菱製鋼株式会社

山崎製パン株式会社

株式会社良品計画（無印良品）

和光堂



西川産業株式会社様のご支援により実現したマットレスの配布（熊本地震）



ヤマザキグループのご協力により実現した給食支援（東日本大震災）

本資料は2013年、2016年に当団体が発行した支援活動報告書の内容を抜粋し再構成しています。パートナー組織の皆さまの情報は報告書発行時にご了解いただいた内容であることをご了承ください。

東日本大震災緊急復興支援

約30万人を対象に支援を届けました

ともに活動した方々、支援を受けた方々からのメッセージ



熊谷さん（左）と事務局長（当時）の片山（右）

同じ目線でいてくれました

気仙沼漁業共同組合 魚市場部長兼製氷冷凍部長（2012年当時）
熊谷 浩幸さん

震災発生3カ月後の2011年6月に魚市場が再開しましたが、気仙沼の人々に夢と希望を与えるのは、魚市場を支える冷凍施設と製氷施設であると考え、1日も早い復興を目指してきました。ワールド・ビジョン・ジャパンの支援を受けて2012年2月に冷凍工場が復旧・稼働し、魚市場の水揚げのバックアップにつながりました。続く11月には製氷工場が完成し、復興にスピード感が増したと思います。

我々は「被災者」ですが、被災者扱いされるとやはり遠慮してしまって、言いたいことも言えなくなってしまいます。しかしWVJは、我々を被災者扱いせず、同じ目線でいてくれたので、言いたいことを全部言えました。そして、それを受けて止めてもらいました。とても感謝しています。

東日本大震災
緊急復興支援を
動画で見る



生涯忘れない支援

南三陸町長

佐藤 仁さん

WVJには、南三陸町の子どものために、多くの支援をいただきました。震災後から、一緒に歩んで来たと思います。特に、ジュニア・リーダーの子どもの活動は、彼らが能動的に活動できる環境を整えてもらったことで、子どもたちが自信を持ちました。子どもたちは、我々にとって復興に向けて同じ土俵に立つパートナーですから、彼らが自信をつけることは、我々にとってもありがたいことです。WVJの支援を、生涯忘れないと思います。



「南三陸町まちづくりプロジェクト」のジュニア・リーダーの子どもたちと佐藤さん

熊本地震緊急支援

のべ約16,400人に支援を届けました

（2016年4月17日～2016年9月30日）

「学童や学校が避難所になり、子どもたちの遊び場がなくなっていました。車中泊なのですが、子どものストレスが溜まると夜泣きするんです。こういう場所で発散できるのは有難いです」

（チャイルド・フレンドリー・スペースで過ごした子どもの保護者）



チャイルド・フレンドリー・スペースに集う子どもたち



「外で遊ぶの久しぶり！気持ちいい！」
（チャイルド・フレンドリー・スペースに参加した小学生男子）



「今、みんなと食べる時間が貴重だと思いました」
（給食支援を受けた小学生女子）



ワールド・ビジョン・ジャパンとは

ワールド・ビジョン・ジャパンは、キリスト教精神に基づいて、災害、紛争、貧困のために困難な生活を強いられる子どもを支援する国際NGOで、日本では1987年に設立されました。2002年には認定NPO法人に認定され、それ以降、当団体への寄付金は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。現在、約6万人のご支援者の皆さま、企業、団体等が活動を支えてくださっています。東日本大震災の時には、国内外から約50億円のご寄付をお預かりし、3年間にわたって支援活動を行いました。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン国内災害緊急・復興支援 東日本大震災と熊本地震での経験

2018年8月発行

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2ハーモニータワー3F TEL: 03-5334-5350 (代表) FAX: 03-5334-5359 www.worldvision.jp

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision

この子を救う。未来を救う。



特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

国内災害緊急・復興支援

—東日本大震災と熊本地震での経験—

子どもたちが前を向いて生きていくために

ワールド・ビジョン・ジャパンは、世界の子どもを支援する認定 NPO 法人です。世界各地の緊急人道支援の現場で培われた経験を活かし、日本国内で発生した大災害においても、地方自治体、企業、ボランティアの皆さまをはじめとするパートナーの方々とともに支援活動を行ってきました。2011 年の東日本大震災後は約 30 万人を対象に、2016 年の熊本地震では約 16,400 人に支援をお届けしました。

緊急期 日常を失った子どもたちの心のケア、学校再開支援、緊急支援物資の配布などを行います

復興期 子どもたちが将来への夢や希望を抱き、健やかに成長できる社会となるよう、長期的な復興に寄与することを目指した支援を行います

子ども支援

子どもたちの学びや遊びの環境を整え、心のケアを行います。一日も早く日常を取り戻せるように学校再開・通学支援を行います。



被災した子どもたちの心のケアにつながるチャイルド・フレンドリー・スペースの実施（熊本地震）



校舎が全壊し、隣接する市に仮移転した小学校へ通う子どもたちのために行ったスクールバス支援（東日本大震災）

東日本大震災では

- 子どもが安心して遊び、話ができるチャイルド・フレンドリー・スペースを 7 力所で実施
- 小・中・高校約 90 校に、学用品や学校備品、体育用品などを支援
- 日本ユネスコ協会連盟と協働で奨学金を支給

熊本地震では

- 避難所にて、熊本 YMCA とともにチャイルド・フレンドリー・スペースを運営。のべ 2,330 人の子どもたちが参加
- 学校再開支援として給食費用の一部、パーティション、防災備品などを支援
- 心理的ストレスを抱えた子どもへの接し方（心理的応急処置）研修を実施

緊急支援物資の配布

被災した方々の物質的ニーズを満たすため、避難所や仮設住宅での生活に必要な物資の配布を行います。



震災発生 3 日後にスタッフを被災地へ派遣。水、毛布、紙オムツ、衛生キットなどの支援物資を避難所の方々に届けました（東日本大震災）

東日本大震災では

- 避難所での生活にすぐ必要な飲料、衛生用品、タオル、毛布、紙オムツなどを配布
- 仮設住宅に入居した約 14,000 世帯に 100 品目以上の生活用品を支援
- 避難所にコミュニティ・キッチン（食事が用意できる設備）を設置。周辺避難所も含め 910 人を対象に食事提供

熊本地震では

- 飲料や衛生用品、紙食器、バスタオル、毛布、高齢者用長スポン等を避難所を中心に配布
- 生活環境を改善するマットレスを支援



企業との連携により実現した、仮設住宅での生活用品支援（東日本大震災）



給食センターが流出した南三陸町の小・中学校でおかず給食を実施。給食センターの再開も支援（東日本大震災）

コミュニティづくり

避難所や仮設住居で生活する方々がコミュニティを形成しながら、孤立することなく日常生活を取り戻せるように支援します。

東日本大震災では

- 仮設住宅内で入居者同士の交流を深めるため、イベントや集会所等を支援
- 各地に散らばって避難した福島県の子どもたちが友だちと再会できる交流イベントを実施



仮設住宅で生活を始めた方々がお互いを知り、交流を深めるきっかけができるように、ベンチとテーブルを支援しました



自治体に代わって学童を臨時運営。新しい施設の建設も支援（東日本大震災）

雇用確保・生計向上

子どもたちの生活安定に不可欠な、大人の雇用確保と生計向上を支援します。

東日本大震災では

- 漁業復興のために以下を支援
- 和船 12 隻、わかめ養殖機材の提供
- 超低温冷凍冷蔵庫の修復、製氷・貯氷工場の建設（一部）



支援によって実現した、震災後初のワカメの収穫



「まちづくりプロジェクト」を通してどのような町を目指して復興していきたいか話し合う子どもたち（東日本大震災）

防災支援

次の災害から子どもたちを守り、被害を最小限に抑えるための支援を行います。

東日本大震災では

- 小・中学校 22 校に太陽光発電システム、井戸、防災倉庫を設置
- 潮位・津波観測システム、ラジオ 2,500 台、津波浸水図、簡易津波標識 100 基を提供
- 避難所に防災倉庫と備蓄のための物資を支援



次の災害に備え小学校に支援した防災倉庫。壁面には、子どもたちが、復興への思いを込めて絵を描きました